

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ふれあい広場	代表者	関口 浅次	法人・事業所の特徴	住み慣れた環境を大切に、在宅での生活が継続できるよう「通い」「宿泊」「訪問」サービスを柔軟に取り入れサービスを提供している。また、急な宿泊や利用の変更などにも調整や対応を行っている。レクリエーションは個々の個性や意欲を見出せるよう個別での対応も行い、季節ごとの行事などご利用者と職員と一緒に楽しみ、喜びを感じながら活動を行っている。広報誌「ふれあい便り」を発行しており、日々の様子やお知らせなど、ホーム内の様子をわかりやすく掲載し、ご利用者・ご家族へ配布をしている。職員間の情報を共有するため、日々のミーティングや定期的なフロア会議等で話し合い、より良い支援ができるようサービスの質の向上に努めている。グループホームとの交流も多くあり、ご利用者が在宅での生活が難しくなった時にも、環境を大きく変えることなく安心して入居に繋がられる体制をとっている。
事業所名	ふれあい多居夢希	管理者	砂井 昌子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	1人	1人	1人	人	1人	2人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者の自宅での生活環境・以前の暮らし方について発症経過シートの活用し・アセスメント表やケアプランの情報の共有し、全職員が理解・把握する。利用者・家族の意向を取り入れたケアプランに沿った個々のニーズに合ったサービス提供を行う	管理者・ケアマネージャーで情報集したアセスメント・ケアプランを利用し、職員に向けて発信している。相談から利用開始までの日にちが短い場合は、利用開始前に全職員が情報を把握しきれない事もある。毎月の会議にて、利用者の情報共有（ニーズや背景、利用頻度、介助や送迎方法など）は行っていた。それ以外にも、利用者・家族とのコミュニケーションの中で背景を聞き取り、新しい情報は職員間で共有出来ている。	職員一人ひとりが利用者の事を考えてくれていると思う。利用者・家族の話にも耳を傾けている。色々と気を配ってくれている。	利用者の「～したい」というニーズの把握に努める（確実に情報が共有できるようにする・職員の共通意識を持つ・意思表示が困難な利用者に対しては、家族やバックグラウンドからの情報から探る）。自宅での生活環境・以前の暮らし方を大切に、本人の気持ちや体調の変化に合わせて職員間で意見交換を行い、即時的な支援を検討・実行する。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方が気軽に入れるような環境整備・スタッフの対応に努める。必要な感染症対策の継続。	感染症対策を引き続き実施しながら、活動（外出・グループホームとの交流）を再開できている。	地域に向けて事業所の良さをアピールする事ができるよう、開かれた雰囲気等を期待する。下駄箱の名札が工夫されていた。事業所内の職員の対応が良かった。	地域の拠点となれるよう、職員の対応や事業所の環境づくりなど、状況に合わせて必要な感染対策をしながら行っていく。



C. 事業所と地域のかかわり	地域交流（いもっこ体操、地域行事への参加・ボランティアの受け入れ等）を行い、利用者の社会参加への意欲向上の支援・事業所と地域との関わりが継続できるように努める。	管理者・ケアマネージャーは、ケアマネ情報交換会や自立支援研修会に参加出来た。地域行事（妙義神社祭り・宮元まつり・川越祭り・初詣）に参加出来たが、いもっこ体操への参加・ボランティアの受け入れは行えなかった。	地域の方にもっと知ってもらえる様、道路沿いに事業所のアピールに繋がるものを掲示してみてもどうか。地域の祭りや行事などに、引き続き参加して欲しい。	近隣の子供達へ登下校時の挨拶・散歩や買い物時・通所サービス送迎時等に、職員が利用者と共に地域住民と交流を図る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の交流会等に積極的に参加し、地域と一体となって利用者の暮らしを支え、社会参加を促し、活動できる機会を増やしていく。	管理者・ケアマネージャーは、ケアマネ情報交換会や自立支援研修会に参加出来た。地域行事（妙義神社祭り・宮元まつり・川越祭り・初詣）に参加出来たが、いもっこ体操への参加・ボランティアの受け入れ・近隣幼稚園による慰問の再開は行えなかった。	職員も少なかつたり忙しかつたりと大変だと思うが、できるだけ多くの利用者に地域行事等に参加してもらえる様に工夫して欲しい。	地域住民との交流を図れる機会を増やす（町内や近隣幼稚園でのイベント参加・近隣住民との挨拶等の交流）。町内や近隣幼稚園でのイベントの日の人員を確保する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	引き続き運営推進会議を通じて地域との情報交換・地域の意見を事業所の活動に活かす。施設での地域交流の場を設け、地域との連携を深めていく。	運営推進会議を通じて、事業所の活動内容の周知をすることができた。	毎回、活動内容の報告や地域との意見交換等、活発な内容の会議になっていると思う。事業所の役割が地域住民に理解されるとよりいいと思う。	運営推進会等にて参加者との情報共有や連携を行い、地域交流が図れる機会を作る。
F. 事業所の防災・災害対策	引き続きグループホームと協働で、消防避難訓練・災害BCPの机上研修を行う。消防訓練を自治会等に事前に周知し、地域の方にも参加してもらおう。	消防訓練は、グループホームと協働して行ったが、実施日を自治会等に発信できなかった。	災害（水害）時に使用するGHの昇降機を実際に体験する事が出来た。町内の防災公園も活かし、事業所・町内が互いに訓練に参加できると、有事の時に役立つと思う。	消防訓練・災害BCPの机上研修（隣接グループと協働にて）の継続。その旨を自治会等に周知し、有事の時に役立つよう、地域の方が参加できるようにする。